

愛知教育大家政 ○館 古都子
奈良女大家政 扇田 信
足達富士夫

1. 人口の大都市集中でさらに複雑になる大都市居住者の住宅難に対応して大量の民間住宅地開発がみられるが、その居住性は貧しく、公共住宅団地にすらも至らぬものである。本研究では、明確な階層分化がみられる民間住宅地に於ける階層間の居住性の差、入居後の居住環境の改善活動を通して、簇生する民間住宅地の管理問題を追究することを目的とする。

2. 民間住宅地開発の盛んな大阪府・奈良県で、異階層に属する60数団地を摘出し、アンケート調査を行ない、今回はその調査中3階層に大別される（上層・中層・下層）団地からそれぞれ2住宅地を選んで発表する。

3. 1. 民間住宅地の質、居住者の社会階層は住宅地階層間で極めて明確な差異を示す。

2. 住宅地の居住性は住宅・住宅地の physical な質に左右される処が大きい。physical な面の居住性の改善は上層で活発である。中層では若干の改善活動を行なうが、最終的には現住宅から転居して、居住性を高めようとする場合も多い。下層では転居したくても資金的制約があり、現住宅の改善は不可能とあって、不満が多く居住性が極めて低いにもかかわらず現状のままとする者が多い。

住宅地の管理は居住者と供給者と地方自治体の役割分担で行なわれるべきであるが、最も改善が促されねばならぬ階層程、管理問題が放棄されているということができ、生活上都市行政の点で極めて問題が多い。